

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	特任教授	氏名	福田 恭介
----	---------------	----	------	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

1. **まばたきに関する研究**：まばたきは、情報を待ちかまえたり情報を取り込んで処理したりしているときには抑制され、情報処理が終了した瞬間にまばたきが発生します。このことは、まばたきが目の保護・防衛のため反射的に生じるだけでなく、期待、処理、処理終了、さらには選択的注意といった認知過程と関連していることを示しています。最近では、ボタン押し反応を抑制させるとそれを補償するかのようにまばたきが発生し、とくに発達障害のある児童では、まばたきのタイミングが遅れやすいことを発見しました。このことは、まばたきによる発達障害アセスメントの可能性を示すものと考えています。
2. **ペアレントトレーニング（ペアトレ）に関する研究**：ペアトレは、親の子育て支援だけでなく、保育園や学校における保育者や教師の子ども支援にも役立つことが示されています。子どもの行動を観察・記録する中で、子どもの不適切な行動に注目するよりも、適切な行動に注目する方が、子どもの行動が変化しやすく、親・保育者・教師の自信を回復させることを明らかにしています。
3. **基礎研究（まばたき）と心理臨床研究（ペアトレ）の統合**
これまでは、基礎研究と心理臨床研究は別々に行ってきていました。最近になって、まばたきのタイミングと発達障害との関連を探ることで、基礎研究と心理臨床研究を統合させようと考えています。
4. **保有学位・資格**：文学博士・臨床心理士

2. 研究業績

①最近の著書・論文

1. 福田恭介 (2017) 「眼球運動」・「瞳孔運動」『生理心理学と精神生理学』日本生理心理学会（企画）堀忠雄・尾崎久記（監修）坂田省吾・山田富美雄（編集）第12章「視覚－運動系」1節・2節、北大路書房 223-231.
2. 福田恭介・小山憲一郎・中村恵美子・中藤広美・酒井志織・香月眞美 (2018) 「ペアレントトレーニング手法を用いたスキルアッププログラムが保育者・教師の子ども支援認知に及ぼす効果」福岡県立大学心理臨床研究 10, 11-21.

②その他最近の業績

<学会発表>

1. 福田恭介 (2017) 「瞬目発生のタイミングと心理過程」第35回日本生理心理学会大会シンポジウム「生理反応測定と行動科学とのつながり－瞬目・自律系に注目して－」2017.5.27（江戸川大学）
2. 福田恭介・松尾太加志・志堂寺和則・早見武人 (2017) 「Go/No-Go刺激の呈示比率と瞬目時間分布」第35回日本生理心理学会大会 2017.5.28（江戸川大学）
3. 早見武人・松尾太加志・福田恭介・志堂寺和則 (2017) 「固視反復作業におけるサッカード加減速の非対称性」日本心理学会第81回大会 2017.9.20（久留米大学）
4. 鶴岡歩・福田恭介 (2018) 「大学生のADHD傾向及び自閉傾向と瞬目抑制・発生の関連」九州心理学会第79回大会 2018.12.1（長崎大学）
5. 福田恭介・吉岡和子・小山憲一郎・中藤広美・中村恵美子・酒井志織・三原佑未・香月眞美 (2018) 「ペアレントトレーニング手法を用いた保育者・教師のためのスキルアッププログラムへの参加形態による子どもへの態度変容－子どもへの関わり・子どもの問題行動の頻度と困り感に着目して－」九州心理学会第79回大会 2018.12.2（長崎大学）

③過去の主要業績

1. 田多英興・山田富美雄・福田恭介（編著）(1991) 「まばたきの心理学－瞬目行動の研究を総括する」北大路書房

2. Fukuda, K. (2001) Eye blinks: New indices of detection of deception. *International Journal of Psychophysiology*, **40**, 239-245.
3. Fukuda, K., Stern, J.A., Brown, T.B., & Russo, M.B. (2005). Cognition, Blinks, Eye-Movements, and Pupillary Movements during Performance of a Running Memory Task. *Aviation, Space, and Environmental Medicine*, **76** (7), Section 2, C75-C85.
4. 福田恭介 (編著) (2011) 「ペアレントトレーニング実践ガイドブックーきつとうまくいく。子どもの発達支援」 あいり出版

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)) 30年度～32年度 交付金額 4,420 千円
研究課題：発達障害児における瞬目抑制・発生のタイミング (研究代表者)

4. 受賞

なし

5. 所属学会

九州心理学会 (理事), 日本生理心理学会 (評議員), 日本心理学会, 日本行動療法学会, 日本心理臨床学会, 日本教育心理学会, International Organization of Psychophysiology (IOP)

6. 担当授業科目

<学部>

心理学実験演習I・2単位・2年・前期, 心理学実験演習II・2単位・2年・後期, 幼児教育心理学・2単位・2年・前期, 教育心理学概論・2単位・2年・後期, 心理学研究法・2単位・2年・後期,

<大学院>

教育課題研究2単位・1年前期, 教育課題演習2単位・1年後期, 地域教育課題演習2単位・1年前期, 子ども教育実践演習I・1単位・1年後期, 子どもの心理研究2単位・1年前期, 子どもの心理演習2単位, 1年後期, 特別研究・2単位・修士1・2年通年

7. 社会貢献活動

九州心理学会理事, 日本生理心理学会評議員, 福岡県立大学人間社会学部紀要読, Scientific Reports 査読, Applied Cognitive Psychology 査読

8. 学外講義・講演

1. 児童養護施設・和白青松園職員研修会・講師
2. 福岡県立大学・教員免許更新講習・講師
3. 福岡県発達障がい者支援センター研修会・講師
4. 田川地区・母と女性教職員の会講演会・講師
5. 直方市ファミリーサポートセンター会員登録講習会・講師
6. 直方市ペアレントトレーニング・スキルアップ講座 (5回シリーズ)・講師
7. 日本心理学会公開シンポジウム・高校生のための心理学講座・講師
8. 福岡市こども総合相談センター・児童福祉司, 児童心理司のための研修会・講師

9. 附属研究所の活動等

1. 第13回特別支援教育スキルアッププログラム (5回シリーズ) の企画と運営
2. 第9回直方市ペアレントトレーニング・スキルアップ講座 (5回シリーズ) の企画と運営